

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Prenatal antibiotic use, caesarean delivery and offspring's food protein-induced enterocolitis syndrome: A National Birth Cohort (JECS)

和文タイトル:

出産前の抗生物質使用及び帝王切開と子どもの食物たんぱく誘発胃腸症の関連

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Dermatology

年: 2023

DOI: 10.1111/1346-8138.16686

筆頭著者名: 山本 貴和子

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

母親の乳酸菌摂取、ヨーグルト摂取、抗生物質の使用、帝王切開などの腸内環境に調整を与える因子が、出生後の乳児食物たんぱく誘発胃腸症の発症にどのような影響を及ぼすかを検討した。

方法:

エコチル調査の参加者 77,881 組の母子を解析した。ばく露因子は、妊娠中の母親の乳酸菌摂取、ヨーグルト摂取、抗生物質の使用、出生前の帝王切開とし、アウトカムは、1 歳半の質問票で評価した食物たんぱく誘発胃腸症とした。

結果:

食物たんぱく誘発胃腸症は 0.6%~1.6%の乳児に認められた。妊娠中に抗生物質にばく露がなかったことは、急性の食物たんぱく誘発胃腸症エピソードと負の相関があった(調整済み OR,0.82, 95% CI,0.68-0.99)。その他の因子については統計学的に有意な関連は認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

妊娠中の抗生物質投与と食物たんぱく誘発胃腸症の間には一貫した関連が認められたが、帝王切開による出産との関連は認められなかった。本研究の結果は再現を必要とするが、食物たんぱく誘発胃腸症の危険因子の特定に役立つと思われる。

結論:

妊娠中の抗生物質使用により乳児の急性食物たんぱく誘発胃腸症エピソードが有意に増加する可能性が示唆された。